

南予の特養ホームなど28施設

災害に備え応援協定

高齢者福祉施設が連携して大規模災害に備えようと、南予の特別養護老人ホームなど28施設が23日、相互応援協定を締結した。

協定では、地震や津波、火災が発生した場合、被災していない施設が利用者の受け入れや職員の派遣、物資の提供などで支援。年1回の全体訓練も行う。施設の内訳は、特別養護老人ホーム20、養護老人ホーム7、軽費老人ホーム1。市町別は、西予8、大洲5、八幡浜4、内子、伊方、宇和島各3、愛南2。

昨年8月から南予地区老人福祉施設連絡協議会が協定内容を検証し

てきた。

23日は宇和文化会館（西予市宇和町卯之町3丁目）で調印式があり、各施設長や行政関係者ら約50人が出席。代表者が協定を交わした。

特別養護老人ホームしいのき園（同市野村町野村）施設長で、協議会の兵頭久雄会長は「困ったときに手を差し伸べてくれる隣人がいることは、大きな希望。会員間のきずなを強くすることが、協定の実効性を高める」と述べた。

（和田亮）



災害時に高齢者福祉施設間で連携する相互応援協定に調印する各施設の代表者

平成 25 年 4 月 24 日（水） 愛媛新聞より